

Earthwatch 松下幸之助記念財団・教員フェローシップ参加報告書 「林業との協働で生み出す絶滅危惧種の生息環境～富士山麓のチョウと花～」

名古屋市立振甫中学校

佐藤かおり

1 参加の動機

私は、勤務校で総合的な学習の担当をしており、今年度は森林学習に取り組んでいる。生徒たちは、夏休みの課題として、日本の森林環境などについての調べ学習をし、天然林、人工林の違いや放置林が多い現在の日本の森林の状況について知ることができた。また、野外学習活動の中では、自然観察ハイキングを行い、生徒は自然観察指導員の話聞きながら、知識を深めた。更に、秋には、NPO「森の健康診断」から講師を招き、学習のまとめの発表会を実施した。一連の学習活動の中で、私自身も森林に関連した調査活動に参加して、何か生徒に伝えることができればと思い、この調査に応募した。貴重な機会を得ることができ、大変感謝している。

2 調査の概要

初日は植林をした二次草原の下草の伐採、二日目は絶滅危惧種であるヒメシロチョウなどの調査を行った。また、初日の夜には研究者である渡邊通人先生の講義を聞くこともできた。

植林地は鹿よけの柵に囲まれており、南京錠がかかっていた。その中に、モミヤブナの若木が植えられていたのだが、一瞬どこに生えているのか分からないほど、バライチゴなど伐採後に繁茂した下草に覆われていた。下草は、伐採後に陽が当たるようになると一気に成長するようで、場所によっては若木の背を追い越しているものもあった。植林された木が順調に成長できるように、木の周りの下草を、大きな鎌で刈っていくという作業だった。機械が入ることも多いようだが、ボランティアが行うには危険だということで、鎌での手作業をした。

二日目の午前、ヒメシロチョウが生活の場としているツルフジバカマの群生地に調査に行った。チョウの下の羽に色ペンで番号を書いていく。その個体が捕獲された時間、場所（WP：ウェイポイント）、汚損度（燐粉のはげ具合などから羽化してどれくらい経っているのが推測できる）、雌雄、確認後にどの方向にどのような状態で飛び去ったかなどを記録していくという調査の手法だ。23頭のヒメシロチョウを確認できた。

二日目の午後は、場所を変え、植物の調査を行った。チョウと同じように、場所、時間、数などを記録していく。キキョウなどの記録をした。



ワレモコウ



キキョウ



バライチゴ

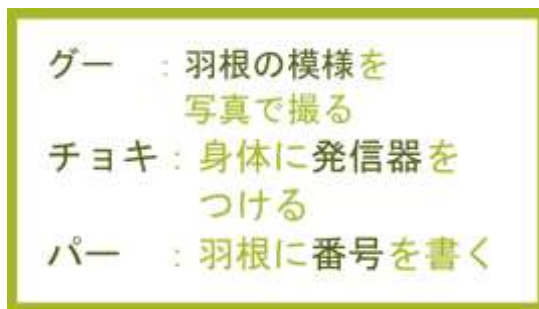
3 講義や調査活動から学んだこと

初日に特に印象に残ったのは、植林した後の大変さだ。植林というと、ニュース映像などで見る苗木を植える場面が思い浮かぶ。しかし、実際にはその後に苗木が順調に育つように下草を刈ったり、鹿よけの柵を設置したりと手入れや保護が必要で、それが、非常に手間がかかる。森が育っていくためには、思った以上に人の手を必要としており、林業の大変さを少しだが感じる事ができた。

また、その後の活動で、伐採後、大きく植生が変わり、植物も昆虫も大きくその環境に影響を受けることがわかった。定期的に人の手が入り、植生が変わることによって生きながらえている種があることも興味深かった。

4 調査で得た知識を応用した授業の実施

参加動機でも書いたように、中学校2年生を対象とした総合的な学習の時間で行ってきた森林学習の一環として、私自身の体験を授業の中で話をした。「これから自分ができること」の選択肢の中に、一市民として参加できる様々な活動があること、森林の健全な育成に何が必要なのかを知ること、生物多様性の意義などが伝わるとよいと思い、クイズなども交えて話をした。



5 授業実施時の生徒の反応

調査のやり方や、森林にきちんと手を入れていくことの大変さや意義については、興味をもって聞いている様子だった。特に、チョウの羽根に数字を書いて記録することや、捕まえた場所をGPSで正確にデータを取ることなどが印象に残ったようだ。夏休みの課題として、日本の森林の現状について調べた生徒は、実際の山の様子や植林後の下草刈りの写真でイメージがもてたようだった。ただ、生物多様性の意義については、私の説明不足で、あまり伝わらなかった。

6 授業を実施した感想・教員が体験を語ることによる生徒の学びへの影響

半年近くかけて、森林学習に取り組む中で、調べる、見る、感じる、聞く、まとめる、話すといった、様々な角度からの取り組みをすることができた。聞くという活動の中で、身近にいる大人として、体験を語ることができてよかった。話し手自身が、驚き、興味をもったことについて、熱量をもって語ることで、ようやく伝わることもあると思う。

また、一市民として、専門的な調査活動に参加する機会があることを伝えることができたのもよかった。様々な団体が環境保全のためにいろいろな努力を積み重ねていること、情熱をもって長期的な調査に取り組んでいる研究者がたくさんいること、企業が、また企業で働く人々が環境に無関心なわけではないこと、私自身、調査内容以外でも、学ぶことがたくさんあった。活動に参加することで、環境保全や森林の問題を自分のものとして考えることができた。気持ちを込めて情報提供できたことで、生徒にとっても、よいきっかけとなったと思う。また、大人になった生徒が、いろいろな形で、自分にできることを探せるとよいと思う。なにより、こうした活動が新しい出会いと発見に満ちた楽しい体験であることが伝わっていれば嬉しく思う。

